

要　望　書

海岸樋門における濁筋の確保について



【金剛第一号樋門から八代海を望む】

令和7年11月
熊本県八代市

八代市における農業農村整備事業の推進につきまして、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本市に広がる八代平野は、一級河川の球磨川や二級河川の氷川などから流下した土砂が堆積してできた扇状地や三角洲等の沖積平野と、西暦1600年頃から始まる干拓事業により広大な農用地が造成され、現在、水稻をはじめ、本市を代表する農産物であるい草やトマトのほか、イチゴ・メロン等の施設園芸や多様な露地野菜が生産されており、県内有数の農業地帯となっております。

しかしながら、干拓により造成された土地の多くは低平地であり、これまで度々集中豪雨による湛水被害に見舞われてきました。

そこで、昭和37年から排水機場の建設が始まり、現在までに25機場が整備され、農地・農作物の湛水被害だけでなく市街地を含めた浸水被害を防止し、農業経営の安定と住民の生命・財産を守ることに寄与しています。

また、日常的には海岸樋門において潮の干満を利用した自然排水を行っており、海岸樋門は干拓地において平常時の排水を担う非常に重要な施設となっております。

この海岸樋門について、以前は樋門前面から沖合にかけて澪筋が確保され、良好な排水が行われていましたが、近年においては閉鎖性海域である八代海特有の泥土堆積による干潟の上昇や、豪雨時における球磨川等の河川からの大量の土砂流入も相まって澪筋が埋塞し、さらには樋門前面にも土砂堆積が見られ、樋門の開閉にも支障をきたすなど、排水機能の低下が著しい状況にあります。

加えて、こうした自然排水機能の低下により排水機場の運転時間が長くなり、電気料金や燃料費等維持管理費の増大にもつながっております。

海岸柵門における濁筋確保のための堆積土砂掘削並びに掘削土砂の処分には多大な費用、定期的な実施が必要あります。

つきましては、柔軟な対応が可能となる新たな制度の創設を強く要望します。

令和7年11月

八代市長 小野泰輔